熊本高等専門	学校	開講年度	平成29年度 (2	017年度)	授業科目	応用生体分子
科目基礎情報						
科目番号	0165			科目区分	専門/選	択
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位	: 1
開設学科	生物化学シス	テム工学科		対象学年	5	
開設期	前期			週時間数	1	
教科書/教材	配布資料					
担当教員	富澤 哲,本田	晴香				
到達日橝						

到连日倧

- この授業では、「バイオミメティクス(生物模倣)」を大きなテーマとして取り上げる中で、 ・生物の構造や機能が、実際にどのような材料に応用されているか理解し、説明できる。 ・バイオミメティック材料を構成するポリマーの合成方法、性質、応用を理解し、説明できる。 ・酵素や抗体の有する機能が、バイオミメティック材料にどのように応用されているか理解し、説明できる。 ようになることを目指す。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
生体材料の応用例についての理解	生物の構造や機能が、実際にどの ような材料に応用されているか明 確に理解し、説明できる。	生物の構造や機能が、実際にどの ような材料に応用されているか理 解し、説明できる。	生物の構造や機能が、実際にどの ような材料に応用されているか理 解し、説明できない。
生体模倣としてのポリマーについ ての理解	バイオミメティック材料を構成するポリマーの合成方法、性質、応用を明確に理解し、説明できる。	バイオミメティック材料を構成するポリマーの合成方法、性質、応用を理解し、説明できる。	バイオミメティック材料を構成するポリマーの合成方法、性質、応 用を理解し、説明できない。
生体模倣としての酵素や抗体についての理解	酵素や抗体の機能が、バイオミメ ティック材料にどのように応用さ れているか明確に理解し、説明で きる。	酵素や抗体の機能が、バイオミメ ティック材料にどのように応用さ れているか理解し、説明できる。	酵素や抗体の機能が、バイオミメ ティック材料にどのように応用されているか理解し、説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	私たち人類は、自然や生物を模倣して多くのものを作ってきた。生物の多様性は新しい材料やデバイス開発のヒントとなっており、これからの社会で自然に学ぶモノつくりはますます重要になっている。このように、生物の構造や機能を模倣する技術のことを「バイオミメティクス (Biomimetics)」と呼ぶ。授業ではバイオミメティクス材料の理解を深めるため、バイオミメティクス材料を構成する高分子材料、および生物を構成する分子について構造と機能を概説し、それがどのように応用されているかを講義する。具体的には、高分子材料(バイオマテリアル)、分子認識、生物模倣による製品開発など、実例をあげて理解を深める。
授業の進め方・方法	教科書は特に使用せず、配布資料や板書にそって授業を進める。また、授業全体の構成として、中間試験前までは、高 分子材料の合成方法・化学的性質、およびバイオミメティクス材料への応用を学習する。中間試験以降では、酵素や生

体膜の構造や分子認識機能と、それを応用したバイオミメティクス材料について学習する。

配布された資料を読み、図書館やWEB等で関連する事象・論文に関して調べ、内容の理解に努めること。問題点は放置 せずに自らも調べ、質問にきてほしい。対応できる限り、質問はいつでも受けつけます。 注意点

授業計画

	-			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	ガイダンス バイオミメティクスとは	本講義で学ぶ内容を把握し、バイオミメティクスの定 義を説明できる。
		2週	生物を模倣した材料と高分子	天然高分子,生体高分子,合成高分子の分子特性につ いて説明できる。
		3週	生物模倣材料としての高分子(1)	高分子の合成方法(重縮合)について理解し、説明できる。
	1stQ	4週	生物模倣材料としての高分子(2)	高分子の合成方法(重付加、付加重合)について理解 し、説明できる。
		5週	生物模倣材料としての高分子(3)	高分子の合成方法(ラジカル重合)について理解し、 説明できる。
		6週	生物模倣材料としての高分子(4)	高分子の合成方法(イオン重合)について理解し、説明できる。
前期		7週	生物模倣材料としての高分子(5) 発表会準備	高分子の分子特性、合成方法について理解し、説明で きる。
133743		8週	〔前期中間試験〕	
		9週	前期中間試験の答案返却と解説 生物模倣材料に関する発表会	生物模倣材料に関する文献を自分で調べ、わかりやす く発表できる。
		10週	生体分子と分子認識(1)	酵素について理解し、説明できる。
		11週	生体分子と分子認識(2)	レセプターについて理解し、説明できる。
	2ndQ	12週	分子認識を利用したスマートマテリアル	分子認識を利用したドラッグデリバリーシステムなど への応用を理解し、説明できる。
		13週	生体膜の特徴	生体膜の特徴や構造を理解し、説明できる。
		14週	生体膜を利用したスマートマテリアル	ミセルやリポソームを応用した材料について理解し、 説明できる。
		15週	〔前期定期試験〕	
		16週	前期定期試験の答案返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
市明め火土	分野別の専	化学・生物	一 操	高分子化合物がどのようなものか説明できる。	4	前2
専門的能力	門工学	系分野	有機化学	代表的な高分子化合物の種類と、その性質について説明できる。	4	前2

高分子の分子量、一次構造から高次構造、および構造から発現する性質を説明できる。 酵素とは何か説明でき、代謝における酵素の役割を説明できる。 4 前10 細胞膜を通しての物質輸送による細胞の恒常性について説明できる。 4 前11	
基礎生物 基礎生物 本地に関を通しての物質輸送による細胞の恒常性について説明できる。	
基礎生物	
免疫系による生体防御のしくみを説明できる。 4 前11 タンパク質、核酸、多糖がそれぞれモノマーによって構成されていることを説明できる。 4 前2 生体物質にとって重要な弱い化学結合(水素結合、イオン結合、疎水性相互作用など)を説明できる。 4 前11,0 上物化学 上物化学 4 前13 大学的性質を説明できる。 4 前13 藤素の構造と酵素-基質複合体について説明できる。 4 前10 酵素の性質(基質特異性、最適温度、最適pH、基質濃度)について説明できる。 4 前10 一部素の性質(基質特異性、最適温度、最適pH、基質濃度)について説明できる。水溶性ビタミンとの関係 4 前10	
タンパク質、核酸、多糖がそれぞれモノマーによって構成されて 4 前2 によってを説明できる。 生体物質にとって重要な弱い化学結合(水素結合、イオン結合、 4 前11, 疎水性相互作用など)を説明できる。 リン脂質が作るミセル、脂質二重層について説明でき、生体膜の 化学的性質を説明できる。 4 前13 酵素の構造と酵素-基質複合体について説明できる。 4 前10 酵素の性質(基質特異性、最適温度、最適pH、基質濃度)につい 4 前10 補酵素や補欠因子の働きを例示できる。水溶性ビタミンとの関係 4 前10	
はることを説明できる。 生体物質にとって重要な弱い化学結合(水素結合、イオン結合、	
生物化学	
生物化学 化学的性質を説明できる。 4 前10 酵素の構造と酵素-基質複合体について説明できる。 4 前10 酵素の性質(基質特異性、最適温度、最適pH、基質濃度)につい 4 前10 補酵素や補欠因子の働きを例示できる。水溶性ビタミンとの関係 4 前10	
酵素の性質(基質特異性、最適温度、最適pH、基質濃度)につい 4 前10 で説明できる。 水溶性ビタミンとの関係 4 前10	
て説明できる。 4 期10 補酵素や補欠因子の働きを例示できる。水溶性ビタミンとの関係 4 前10	
生物工学 バイオテクノロジーの応用例(遺伝子組換え作物、医薬品、遺伝 4 前12,	
評価割合	評価割合
試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計	
総合評価割合 90 10 0 0 0 100	総合評価割合
基礎的能力 30 10 0 0 0 40	基礎的能力
専門的能力 60 0 0 0 0 60	専門的能力
分野横断的能力 0 0 0 0 0 0	分野横断的能